

JAAF MIE

三重陸協会報

第3号

三重陸上競技協会



事務局・〒516-0023 伊勢市宇治館町510 (三重県営総合競技場陸上競技場内) TEL・FAX 0596-22-8890 URL:http://mierk.jp/ MAIL:info@mierk.jp

ごあいさつ

三重陸上競技協会 会長 豊田利一



東日本大震災から二年が経過し、被災地の復興も進みつつあります。昨年末に誕生した新政策のもと、経済再生に向けての政策もスタートしようとしています。昨年を振り返ると、ロンドンオリンピックで吉田沙保里選手が金メダルを獲得し国民栄誉賞を受賞するなど、三重県のスポーツ界にとっても明るいニュースがありました。三重陸協関係でも、12月に行われた全国高校駅伝で伊賀白鳳高校が3位、全日本実業団女子駅伝でデッソーが2位という素晴らしい活躍をしてきたことは記憶に新しいところですが、なかでも、

昨年六月に亡くなられた町野前監督(三重陸協理事)にメダルを届けようと必死に力走する伊賀白鳳高校の選手の姿は、県内の多くの人に感動を与えてくれました。一方、今年になってスポーツ界での指導者による体罰の問題が報道されています。現在、スポーツは文化として、社会的に

大きな影響力をもつようになり、三重陸協も選手の活躍やすぐれた競技運営力など、県内のスポーツ界において注目される存在となっております。それだけに、一人ひとりがそういった組織の一員であるという自覚と誇りをもち、責任をもった行動を心がけ、選手強化や競技運営にあたっていく必要があります。

平成30年の全国高校総体、平成33年の三重国体に向けて選手強化と競技運営の充実が早急に取り組まなければならない課題となってきました。この課題を克服するためには、今まで以上に三重陸協の組織力を高めていかなければなりません。そのためには、一人ひとりの選手強化や競技運営の技能を高めていくことが大切になってきます。

選手と監督の信頼関係、信頼される競技運営、そして三重陸協が信頼される組織となっていくことが、三重県の陸上競技の発展につながっていくと信じています。

会長として皆さんとともに三重陸協の発展に尽力していきたくて考えております。

2013年への抱負

三重陸上競技協会 理事長 松澤二一



2013年の最初の大会は男女の全国都道府県駅伝大会でしたが、残念ながら男子30位、女子14位という結果に終わりました。また、先日はタスキリレーも無事終わることができ、三重陸上競技協会主催の行事もすべて終了することができました。これもひとえに皆様方のご協力のおかげと感謝しております。

全国高校総体・三重国体まで残り5年・8年の年を迎えることにもなりますが、現状では全国規模の大会を行うには、まだまだ審判員数の不足、審判員力量の向上が必要となっております。陸上競技のルールも毎年と言っていい程改正され、昔のルールでは大会運営に支障が出ることがあります。常に新しい

ルールを研修して大会に臨んで欲しいものです。

昨年は近県、岐阜で国体が開催され、三重県は準地元として頑張りましたが、残念ながら総合での入賞までは程遠い結果で終わりました。しかし、私たちが一番驚いたのは開催地岐阜の活躍でした。戦力的には厳しいと思われていた状況の中で、地元開催という大きな力も後押ししてくれたこともあるかもしれません。陸上競技の天皇杯総合優勝の栄冠を勝ち得ました。5年後のインターハイ・8年後の国体では、三重県もそのような結果が得られるよう努力していきます。皆様のご協力を頂けないことには、このような偉業を成し遂げることができません。県下の指導者一人一人が、選手育成の努力を惜しまず取り組んでいってほしいものです。さて、来年度の役員改選も終了し、三重県陸上競技協会も一般法人化をすすめております。また、東海陸上競技協会も本県に

事務所が移転される予定となっております。強化部では昨年度の国体反省の中では、「女子戦力の向上」が叫ばれています。数年前までは、100m11秒台の選手が全国でも活躍し、インターハイ・国体でも結果を残してくれましたが、最近では東海地区の大会でも厳しい状況となりつつあります。急に女子の競技力の向上を求めることはできませんが、このことは急務だと考えております。これからの三重インターハイ・三重国体に向けた小学生・中学生の競技力の向上と強化が三重県に素晴らしい結果を残してくれるものと思っております。そのためにも、一人でも多く選手を陸上競技の魅力に引き込んで欲しいと思っております。普及部では、県下各地区陸協を回り、地区の指導者の方々といろいろ議論を重ねてきました。その中で、指導者向けの研修会を行い発育発達に合った練習方法などを勉強してもらい、強化に役立ててほしいと思います。普及部と強化部のコラボで、小学生の強化練習会を行うなど、今までにない企画をしてまいります。これから乞うご期待。

ご協賛をいただいた企業

- 学校法人 高田学園
- 桑名スポーツ
- 魚定
- 更スポーツ
- スポーツショップ四日市
- 株式会社 まるかつ
- ぎゅーとら
- 麻野館
- 山本整骨院
- 八千代工業株式会社
- NTN株式会社
- 株式会社デンソー
- 長谷川体育施設株式会社
- アシックス中部販売株式会社
- 株式会社 ニシ・スポーツ
- 鈴鹿国際大学
- 株式会社 クレーマージャパン
- 岐阜経済大学
- 日清ファルマ株式会社
- 鈴鹿医療科学大学

(敬称略)

日本陸上競技連盟栄章

岐阜国体会場にて平成23年度授与式が行われました。

- ◇ 高校優秀指導者章 床 辺 敦 紀 氏
- ◇ 中学優秀指導者章 岡 部 佳 津 子 氏
- ◇ 高校優秀選手章 伊 藤 瑞 希 選手
- ◇ 中学優秀選手章 松 岡 修 平 選手

各地区陸協報告

桑員陸協

1月に開催した中日東員ロードレースを最後に今年度の競技会をすべて無事に終了することができました。年々審判員が少なくなるなか、教員以外の方の審判員の方はとても重要であり、競技会運営には必要不可欠な人材となっております。今後も若い世代の審判員の確保が急務であり、普及、強化と共に平成33年度の国民体育大会運営に向けて確保していく必要があると考えています。

今年度は桑名高校の愛敬彰太郎君が岐阜県で開催された国民体育大会で少年男子A400mに出場し、みごと優勝しました。また、全日本実業団女子駅伝でも株式会社社デンソーが2位になるなど、三重県・桑員地区にとっては輝かしい年になったと思う。しかしながら、中学生、小学生の全国大会での活躍が少ない状態であり、今後の協会の重要課題と位置付け、強化していく必要があると考える。

三泗陸協

今年度も普及に向けてさまざまな事業を実施した。桑員陸上フェスティバルでは、普及を目的として楽しめる大会をコンセプトに競技会を実施し、参加者も年々増えている状況である。また、小学生を対象に選手、保護者も一緒に楽しみながら競技会に参加できる大会を実施し、一人でも多くの選手を増やすことにより、普及、強化につながるかと考えております。今年度も多くの選手が参加し陸上競技を楽しめる機会の一つとして競技会を運営していきたいと思っております。

12月に東員町スポーツ公園陸上競技場の公認の検定が行われました。東員町長、東員町議会をはじめ

めとする多くの皆様にご理解・ご支援をいただき無事継続ができました事、深く感謝いたします。

東員町スポーツ公園陸上競技場は桑員地区の選手にとっては重要な施設であると共に、東員町民の健康づくりの重要な場となっております。1月に開催しました中日東員ロードレース大会では、多くの東員町の方が出場していただき

ました。当陸上競技場は竣工から20年が経過し、トラック部分の改修が必要になってきており、選手の怪我防止のためにも改修をお願いしたいと思っております。

今後この陸上競技場から一人でも多く全国大会で活躍できる選手の育成、強化をしていき、さまざまな企画をしながら東員町と一緒に桑員陸上競技協会の発展に努めていきたいと思っております。

鈴鹿陸協

2008年秋に地元石垣池競技場が全天候型に改修されてから4年が経過し、現在、公認継続更新に向けての改修工事に入っています。その間、石垣池を練習拠点にして多くの選手が育つてくれました。

今年度鈴鹿市の各学校からは、小学生では5年100mで林 哉太君（旭が丘）と6年走高跳で太田ひまりさん（ASSAIRTIC）の2名が全国大会に出場しました。

中学生では110mHで山尾昇也君（白子）、100m、200mで一色 美咲さん（神戸）の2名が全日本中学選手権に出場し、一色さんは秋の大会で100m、200mの県中学新記録を樹立しました。

高校では走高跳で衛藤 将君（鈴鹿高専）、円盤投で三村 武司君（稲生）、奥野 芳佳さん（稲生）が全国高校総体に出場しました。

亀山陸協

一般では走高跳で衛藤 昂君（鈴鹿高専）、走幅跳で井村久美子さん（IDEAR）が日本選手権で入賞されました。

また、年末に開催された全国中学駅伝には神戸中学が男女そろって出場するという快挙を成し遂げました。その他、鈴鹿市出身の選手が国体やジュニア・ユース選手権、ジュニアオリンピックク、大阪室内で活躍され、これも現場の指導者をはじめ関係団体のお力添えのためものと深く感謝いたしております。

この結果に満足せず、数年後に開催される三重県インターハイ、三重国体に向けてさらなる普及と強化が求められているので関係者とともに地区陸協を盛り上げていきたい所存です。

昨年、三重陸協にとっても残念な出来事は亀山市在住、伊賀白鳳高校の町野先生が亡くなりましたことだと思っております。県内の特に高校長距離選手の育成にご尽力され、多大な功績を残されました。昨年末の全国高校駅伝で伊賀白鳳高校は亡くなられた先生に恩返しと「繋ぎの駅伝」に総力を結集して

第3位という快挙を成し遂げ、県内全体に感動を与えてくれました。「陸上競技部員である前に、よき学生であれ」との先生の教えは生徒の皆さんによく行き届き、今年「かめやま江戸の道シテイマラソン大会」に参加してくれた生徒の皆さんは大会終了後、全員がすすんで会場のゴミ拾いをしてくれていました。素晴らしい光景に運営者としても大変助かり感謝しております。

また、亀山市内の当時の生徒も多数が先生にお世話になり、大きく成長してくれました。もちろん亀山陸協の発展及び亀山市のス

ポーツ振興にも助言をいただいたりして地域スポーツの普及にもお力添えをいただきました。ここから心からお礼と謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

亀山陸協も、「柳河精機（株）」、「亀山高校」、「亀山中学校」、「亀山中部中学校」小中学校生を対象としたクラブ「JAC亀山」の陸上選手が県内で大活躍してくれており喜んでおります。昨年の「第5回美し国三重市町対抗駅伝」で念願の7位入賞を果たし、より連帯感が強まり、今年更に上位をと意気込んで参加しました。

小さな市ですがシテイマラソン大会の他に小学生の陸上競技会、スポーツ少年団体の駅伝大会、亀山市の自治会、事業所、一般の部の駅伝大会等を毎年盛大に開催しています。審判の人数は少ないですが、各中学校や亀山高校の生徒さん及び先生方がよくお手伝いをしていただき運営できています。今後とも皆様に支えていただき、共に連絡を取り合いながら陸上人口も増やし発展させていきたいと思っております。

津地区は約70名の審判員からなり、陸上競技の普及・強化を主な目的として記録会・大会・スポーツ教室等を開催しています。平成24年度は、新潟I日男子ハンマー投で植松直紀くん（久居高）、男子1500mで畔柳隼弥くん（伊賀白鳳高）、男子4×100mRで田中翔真くん（四日市工業高）が入賞し、ぎふ清流国体では松岡修平くん（高田高）が少年B男子走幅跳で1位と同記録で2位に入賞しました。大学生・社会人では日本選手権やインカレの男子円盤投で小野真弘くん（筑波大）、日本選手権女子砲丸投で茂山千尋さん（国士舘クラブ）、男子

5000mで松本賢太くん（トヨタ自動車）が入賞しました。また、中学生ではジュニアオリンピッククCクラス男子100mに前川拳太郎くん（美杉中）、Aクラス女子3000mに森藤風さん（美杉中）が出場しました。小学生では太田瑛美さん（一志Beast）が全国小学生交流大会女子走幅跳に出場しました。また、冬季になり、津商業高校が全国高校駅伝（女子の部）に出場するなどの活躍をしました。年が明けて、ニューイヤ駅伝の田中貴章くん（NTN）の力走から元気をいただいています。

津地区には、公認の陸上競技場がなく、24年度も多くの地区陸協さんの暖かいご配慮により大会や記録会を実施させていただきました。心よりお礼申し上げます。この現状を解消すべく、公認競技場の新設を津市スポーツ協会とともに津市へ要望してきた結果、その実現に向けて動き始めています。平成30年、33年の高校総体、国体の三重県での開催に向けて、小中の連携を深め、さらに陸上競技の普及・強化に努めていきたいと考えています。

今年度の成果としては、まず、小学生チームが増えたと言うことが大きな成果としてあげられる。これまでは地区内に2チームであったが、3チームになり普及・競技力の向上の面で成果が期待できるとなりました。このことは地区全体として、喜ばしいことと考えています。また、中学生においても、昨年度までも全国大会に多数出場していましたが、今年度、西中の奥川くん、多気中の中西さんが全国中学生大会で、三雲中の亀田くん、多気中の浦田さんが全国ジュニアオリンピック大会

津地区は約70名の審判員からなり、陸上競技の普及・強化を主な目的として記録会・大会・スポーツ教室等を開催しています。平成24年度は、新潟I日男子ハンマー投で植松直紀くん（久居高）、男子1500mで畔柳隼弥くん（伊賀白鳳高）、男子4×100mRで田中翔真くん（四日市工業高）が入賞し、ぎふ清流国体では松岡修平くん（高田高）が少年B男子走幅跳で1位と同記録で2位に入賞しました。大学生・社会人では日本選手権やインカレの男子円盤投で小野真弘くん（筑波大）、日本選手権女子砲丸投で茂山千尋さん（国士舘クラブ）、男子

5000mで松本賢太くん（トヨタ自動車）が入賞しました。また、中学生ではジュニアオリンピッククCクラス男子100mに前川拳太郎くん（美杉中）、Aクラス女子3000mに森藤風さん（美杉中）が出場しました。小学生では太田瑛美さん（一志Beast）が全国小学生交流大会女子走幅跳に出場しました。また、冬季になり、津商業高校が全国高校駅伝（女子の部）に出場するなどの活躍をしました。年が明けて、ニューイヤ駅伝の田中貴章くん（NTN）の力走から元気をいただいています。

津地区には、公認の陸上競技場がなく、24年度も多くの地区陸協さんの暖かいご配慮により大会や記録会を実施させていただきました。心よりお礼申し上げます。この現状を解消すべく、公認競技場の新設を津市スポーツ協会とともに津市へ要望してきた結果、その実現に向けて動き始めています。平成30年、33年の高校総体、国体の三重県での開催に向けて、小中の連携を深め、さらに陸上競技の普及・強化に努めていきたいと考えています。

今年度の成果としては、まず、小学生チームが増えたと言うことが大きな成果としてあげられる。これまでは地区内に2チームであったが、3チームになり普及・競技力の向上の面で成果が期待できるとなりました。このことは地区全体として、喜ばしいことと考えています。また、中学生においても、昨年度までも全国大会に多数出場していましたが、今年度、西中の奥川くん、多気中の中西さんが全国中学生大会で、三雲中の亀田くん、多気中の浦田さんが全国ジュニアオリンピック大会

津地区は約70名の審判員からなり、陸上競技の普及・強化を主な目的として記録会・大会・スポーツ教室等を開催しています。平成24年度は、新潟I日男子ハンマー投で植松直紀くん（久居高）、男子1500mで畔柳隼弥くん（伊賀白鳳高）、男子4×100mRで田中翔真くん（四日市工業高）が入賞し、ぎふ清流国体では松岡修平くん（高田高）が少年B男子走幅跳で1位と同記録で2位に入賞しました。大学生・社会人では日本選手権やインカレの男子円盤投で小野真弘くん（筑波大）、日本選手権女子砲丸投で茂山千尋さん（国士舘クラブ）、男子

5000mで松本賢太くん（トヨタ自動車）が入賞しました。また、中学生ではジュニアオリンピッククCクラス男子100mに前川拳太郎くん（美杉中）、Aクラス女子3000mに森藤風さん（美杉中）が出場しました。小学生では太田瑛美さん（一志Beast）が全国小学生交流大会女子走幅跳に出場しました。また、冬季になり、津商業高校が全国高校駅伝（女子の部）に出場するなどの活躍をしました。年が明けて、ニューイヤ駅伝の田中貴章くん（NTN）の力走から元気をいただいています。

津地区には、公認の陸上競技場がなく、24年度も多くの地区陸協さんの暖かいご配慮により大会や記録会を実施させていただきました。心よりお礼申し上げます。この現状を解消すべく、公認競技場の新設を津市スポーツ協会とともに津市へ要望してきた結果、その実現に向けて動き始めています。平成30年、33年の高校総体、国体の三重県での開催に向けて、小中の連携を深め、さらに陸上競技の普及・強化に努めていきたいと考えています。

今年度の成果としては、まず、小学生チームが増えたと言うことが大きな成果としてあげられる。これまでは地区内に2チームであったが、3チームになり普及・競技力の向上の面で成果が期待できるとなりました。このことは地区全体として、喜ばしいことと考えています。また、中学生においても、昨年度までも全国大会に多数出場していましたが、今年度、西中の奥川くん、多気中の中西さんが全国中学生大会で、三雲中の亀田くん、多気中の浦田さんが全国ジュニアオリンピック大会

津地区は約70名の審判員からなり、陸上競技の普及・強化を主な目的として記録会・大会・スポーツ教室等を開催しています。平成24年度は、新潟I日男子ハンマー投で植松直紀くん（久居高）、男子1500mで畔柳隼弥くん（伊賀白鳳高）、男子4×100mRで田中翔真くん（四日市工業高）が入賞し、ぎふ清流国体では松岡修平くん（高田高）が少年B男子走幅跳で1位と同記録で2位に入賞しました。大学生・社会人では日本選手権やインカレの男子円盤投で小野真弘くん（筑波大）、日本選手権女子砲丸投で茂山千尋さん（国士舘クラブ）、男子

5000mで松本賢太くん（トヨタ自動車）が入賞しました。また、中学生ではジュニアオリンピッククCクラス男子100mに前川拳太郎くん（美杉中）、Aクラス女子3000mに森藤風さん（美杉中）が出場しました。小学生では太田瑛美さん（一志Beast）が全国小学生交流大会女子走幅跳に出場しました。また、冬季になり、津商業高校が全国高校駅伝（女子の部）に出場するなどの活躍をしました。年が明けて、ニューイヤ駅伝の田中貴章くん（NTN）の力走から元気をいただいています。

津地区には、公認の陸上競技場がなく、24年度も多くの地区陸協さんの暖かいご配慮により大会や記録会を実施させていただきました。心よりお礼申し上げます。この現状を解消すべく、公認競技場の新設を津市スポーツ協会とともに津市へ要望してきた結果、その実現に向けて動き始めています。平成30年、33年の高校総体、国体の三重県での開催に向けて、小中の連携を深め、さらに陸上競技の普及・強化に努めていきたいと考えています。

松阪多気陸協

今年度の成果としては、まず、小学生チームが増えたと言うことが大きな成果としてあげられる。これまでは地区内に2チームであったが、3チームになり普及・競技力の向上の面で成果が期待できるとなりました。このことは地区全体として、喜ばしいことと考えています。また、中学生においても、昨年度までも全国大会に多数出場していましたが、今年度、西中の奥川くん、多気中の中西さんが全国中学生大会で、三雲中の亀田くん、多気中の浦田さんが全国ジュニアオリンピック大会

津地区は約70名の審判員からなり、陸上競技の普及・強化を主な目的として記録会・大会・スポーツ教室等を開催しています。平成24年度は、新潟I日男子ハンマー投で植松直紀くん（久居高）、男子1500mで畔柳隼弥くん（伊賀白鳳高）、男子4×100mRで田中翔真くん（四日市工業高）が入賞し、ぎふ清流国体では松岡修平くん（高田高）が少年B男子走幅跳で1位と同記録で2位に入賞しました。大学生・社会人では日本選手権やインカレの男子円盤投で小野真弘くん（筑波大）、日本選手権女子砲丸投で茂山千尋さん（国士舘クラブ）、男子

5000mで松本賢太くん（トヨタ自動車）が入賞しました。また、中学生ではジュニアオリンピッククCクラス男子100mに前川拳太郎くん（美杉中）、Aクラス女子3000mに森藤風さん（美杉中）が出場しました。小学生では太田瑛美さん（一志Beast）が全国小学生交流大会女子走幅跳に出場しました。また、冬季になり、津商業高校が全国高校駅伝（女子の部）に出場するなどの活躍をしました。年が明けて、ニューイヤ駅伝の田中貴章くん（NTN）の力走から元気をいただいています。

津地区には、公認の陸上競技場がなく、24年度も多くの地区陸協さんの暖かいご配慮により大会や記録会を実施させていただきました。心よりお礼申し上げます。この現状を解消すべく、公認競技場の新設を津市スポーツ協会とともに津市へ要望してきた結果、その実現に向けて動き始めています。平成30年、33年の高校総体、国体の三重県での開催に向けて、小中の連携を深め、さらに陸上競技の普及・強化に努めていきたいと考えています。

今年度の成果としては、まず、小学生チームが増えたと言うことが大きな成果としてあげられる。これまでは地区内に2チームであったが、3チームになり普及・競技力の向上の面で成果が期待できるとなりました。このことは地区全体として、喜ばしいことと考えています。また、中学生においても、昨年度までも全国大会に多数出場していましたが、今年度、西中の奥川くん、多気中の中西さんが全国中学生大会で、三雲中の亀田くん、多気中の浦田さんが全国ジュニアオリンピック大会

津地区は約70名の審判員からなり、陸上競技の普及・強化を主な目的として記録会・大会・スポーツ教室等を開催しています。平成24年度は、新潟I日男子ハンマー投で植松直紀くん（久居高）、男子1500mで畔柳隼弥くん（伊賀白鳳高）、男子4×100mRで田中翔真くん（四日市工業高）が入賞し、ぎふ清流国体では松岡修平くん（高田高）が少年B男子走幅跳で1位と同記録で2位に入賞しました。大学生・社会人では日本選手権やインカレの男子円盤投で小野真弘くん（筑波大）、日本選手権女子砲丸投で茂山千尋さん（国士舘クラブ）、男子

5000mで松本賢太くん（トヨタ自動車）が入賞しました。また、中学生ではジュニアオリンピッククCクラス男子100mに前川拳太郎くん（美杉中）、Aクラス女子3000mに森藤風さん（美杉中）が出場しました。小学生では太田瑛美さん（一志Beast）が全国小学生交流大会女子走幅跳に出場しました。また、冬季になり、津商業高校が全国高校駅伝（女子の部）に出場するなどの活躍をしました。年が明けて、ニューイヤ駅伝の田中貴章くん（NTN）の力走から元気をいただいています。

津地区には、公認の陸上競技場がなく、24年度も多くの地区陸協さんの暖かいご配慮により大会や記録会を実施させていただきました。心よりお礼申し上げます。この現状を解消すべく、公認競技場の新設を津市スポーツ協会とともに津市へ要望してきた結果、その実現に向けて動き始めています。平成30年、33年の高校総体、国体の三重県での開催に向けて、小中の連携を深め、さらに陸上競技の普及・強化に努めていきたいと考えています。

今年度の成果としては、まず、小学生チームが増えたと言うことが大きな成果としてあげられる。これまでは地区内に2チームであったが、3チームになり普及・競技力の向上の面で成果が期待できるとなりました。このことは地区全体として、喜ばしいことと考えています。また、中学生においても、昨年度までも全国大会に多数出場していましたが、今年度、西中の奥川くん、多気中の中西さんが全国中学生大会で、三雲中の亀田くん、多気中の浦田さんが全国ジュニアオリンピック大会

第67回 岐阜国体陸上競技結果報告

平成24年度の国民体育大会（岐阜国体）の天皇杯は55点で18位、皇后杯は15点で40位でした。

桑名高校の愛敬選手が少年A 400mで見事優勝、高田高校の松岡選手が少年B走幅跳で2位、伊賀白鳳高校の西山選手が少年A 5000mで2位、NTNの梅枝選手が成年3000SCで2位など高校生を主体とした男子の活躍が目立ちました。

しかし、女子につきましては、積水化学の尾西選手が成年5000mで5位にただ一人が入賞したのみとなりました。

女子選手はここ数年、国体構成メンバーでも最少人数で編成されており、今後一層の強化が課題として挙げられます。

都道府県駅伝報告

1月に行われました京都での都道府県対抗女子駅伝は14位、広島での男子駅伝は30位でした。

女子は地元デンソーを中心とした実業団選手が力を出し、過去最高記録を更新することができました。今後は、中高生の強化をはかりさらに上位をねらいたいです。今回、高校生は1年生が3人走っており、この経験を生かして行ってほしいです。

男子は、伊賀白鳳の西山選手の活躍が光りましたが、一般の選手が不調で不本意な結果となってしまいました。

伊勢度会陸協

で、それぞれ入賞をする事ができませんでした。このことも、小中の連携の成果のひとつだと思います。高校生もよく頑張っており、相可高校の中林さん、油谷さんは国体に県代表として出場し、日本ユースでも入賞をしています。松阪地区陸協は規模も小さく、少人数での運営となっていますが、今後も、小中高の合同練習会などを開くと、連携を大切にしたい選手育成に取り組みたいと思います。

平成24年度もそれぞれの年代で好成績を取ってくれました。高校では全国高校総体で宇治山田商業が4×1000mRで第5位（その

後東海高校タイ記録も樹立）、男子やり投げで伊勢工業の中西琢磨君が第8位に入賞。中学校では全ジュニアオリンピックで度会中学校の服部洋代さんが昨年5位に入賞している女子ジャベリックスローで見事に優勝。また、度会中学校の林田珠理那さんが女子1000mで高校・社会人を抑えて三重県選手権で中学生ながら見事に優勝。全日本中学でも1000mで第8位に入賞しました。

2012年度も素晴らしい活躍を見せてくれましたが、伊勢度会陸協を含む南勢地区の少子化は深刻な問題です。小学校のクラブチームもたくさん設立していただき、ほとんどの各中学校にも陸上競技の専門の指導者がいてくれま

鳥羽志摩陸協

す。こういった現状にあぐらをかかず、全国I・H・国体の開催を5年後・9年後に控え、それぞれのパイプをつなげていけるよう三重陸協にも協力を仰ぎながら進めていければと思います。

平成24年度は、文岡中学校の男子リレーチームが、出口先生の指導のもと、全国大会優勝という、本協会はもとより、三重陸協の歴史に残る快挙を達成したということが、なによりうれしかったことであり、鳥羽志摩の陸上関係者の一番の話題となりました。

鳥羽志摩陸協の主な活動として、大会の主催、小中学生を対象にした練習会の開催、市町駅伝の選手強化、市内の小中学校の大会での審判、小学校教員対象の審判・指導法の講習などを行ってきました。昨年度は、その中でも特に志摩市の小学校教員対象の講習会にて、クラブチームの選手を使うことで、指導方法や審判の方法が今まで以上に分かりやすく理解できたたいへん好評をいただくことができました。

伊賀陸協

平成25年度も文岡中学校の快挙に続く選手、陸上大好きな選手、三重国体につながる選手をみんな育てていきたいと思っています。

伊賀市の平成24年度は、学生が活躍してくれました。トラックでは第28回全国小学生陸上競技交流会において、ゆめが丘クラブの吉川さんが6年女子1000mで6位に入賞、高校総体・国体では、白鳳高校の選手をはじめ入賞するなどありました。12月の都大路の全国高校駅伝で伊賀白鳳高校男子駅伝チームが1区西山君の区間トップで波に乗り、しっかりとたすきをつなぎテ

名張陸協

レビの画面には終始上位で走る選手の姿が、トラック勝負になり3位入賞となる活躍がありました。24年3月には、4種ではありますが公認としてトラックを中心にリニューアルし、25年4月には、観覧席や会議室の増築など競技場もよくなり、4月から小学生を対象にした教室を開催するとともに小学生・中学生を中心に高校生・一般の参加をしていただく記録会や大会を計画中ですが、学校統合等でスタッフが減少し、大会の運営が心配されます。

名張市陸上競技協会・名張クラブも小さいながらも県大会・全国大会で活躍する選手の発掘育成を目指して日々精進しています。しかし、昨年まで支えてくれた岡部和憲君が県警に採用され後継を育てるのに四苦八苦しています。名張クラブは、結成して三年目を迎え、このクラブから育った選手には、全国高校駅伝3位の伊賀白鳳高校辻野選手・中舎選手、インターハイ4000mリレー18位入賞の田中選手がいます。中学生では、全国ジュニアオリンピックに出場した小寺選手、全国室内大会に出場する室井選手がいます。小学生でも県大会で戦うことのできる選手が育ってきています。全国マスターズでは、名張クラブとして混成リレーを組み6位入賞を果たしました。

9歳から70歳まで幅広い年齢層で練習の最後は、全員でリレーを行い、お互い競い合いながら親睦を図っています。名張市の医療削減にも力を入れていて、リハビリを兼ねて参加され回復された方も見えます。このようなチームを遠方から見学に来られる方や滋賀県甲賀市や伊賀市、津市から練習に参加して

尾鷲陸協

いる小中学生もいます。平成33年には、三重国体が開催される事が決定しました。名張クラブからも一人でも多くの選手が活躍してくれることを願っています。

尾鷲高校陸上部のOB・OGを中心に、平均年齢25・8歳の若い尾鷲陸協に生まれ変わりました。具体的な取り組みとして、今年度は小・中・高の校種を越えた陸協主催の練習会を積極的に行います。選手も指導者も、顔のわかる「つながり」を大切に、「地域の選手は、地域で育てる」をキーワードとして頑張っていきます。

北牟婁陸協

また、これまでは審判登録数も少なかつたことから、今年度はその増加にも力を入れていきます。

北牟婁陸協としては、2月17日に行われる「第6回美し国三重市町対抗駅伝」を1大イベントとして準備を進めています。第1回大会から6位、5位、3位、5位、4位と町の部で連続して入賞しており、富士通で活躍する山口祥太を第4回大会から欠きながらも健闘を続けています。

また、今年度は、潮南中学校の直江航平が2000mで全日中と全国J.Oに出場することができ、トラックシーズンにも明るい話題を提供してくれました。特に、全日中に北牟婁地区の中学生が出場するのは、実に20数年ぶりのことであり、下の学年にも全日中に十分出場できる力のある選手が複数育っていることと合わせて良い流れが来ているように思います。今後は、その良い流れを継続していけるように精進していきます。

熊野陸協

本年度、熊野RCには小・中学生合わせて63名が在籍しており、練習は毎週土曜日の夕方、熊野市宮グラウンドで行っています。また、本年度より飛鳥中学校グラウンドでナイター練習も行っており、地元小学生を中心に20人前後の参加者があります。

昨年度始めて小学生の全国大会に出場することができましたが、本年度も、男子6年生1000mで、上中亮が出場した県大会ですべて優勝し、全国大会に出場しました。5年生1000mでも、山西勇介が複数の大会で上位に入賞し、今年度ランキングでは2位となりました。また、この2人を並べた男子4×1000mRでも、複数大会で入賞することができました。

女子では県クラブ対校・県小学生選手権ともに、3年生60mで2人入賞（中道友菜・大江陽菜）するなど活躍しました。他にも有望な選手が複数おり、今後の活躍を楽しみにしています。

中学生も、男子棒高跳で2人の選手がランキング10傑に入るなど活躍しました。また、本年度は、三重陸協と共催で中学生を対象とした「陸上教室」を開催し、100名を超える参加者で大いに盛り上がりました。

主な指導者は3名しかいませんが、お互いに連絡を取り合いながら小学生・中学生・高校生と継続的な指導ができるようにしています。中学・高校で陸上部が少ないのがネックですが、中学・高校と陸上を続ける選手も出てきており、うれしく思っています。今後は、熊野地区で陸上競技の輪を広げられるように、熊野陸協として「熊野RC」の活動を中心に活動していきたいと考えています。

各部・委員会等報告

普及部



平成24年度は、全国小学生交流大会で2名、全日本中学校陸上競技大会では5種目4名+リレー1チーム、全国高校総体では8種目6名+リレー2チームが入賞するという成果を出す事ができました。その中でも、文岡中学の男子400mリレーの優勝には感動を与えていただきました。また高校ではここ数年、全国大会への出場数や入賞数が充実しています。しかし、一方で女子の入賞数がゼロという課題も浮き彫りになりました。

いよいよ三重県でも全国大会が開催される事が決まりました。来たるべき地元での全国大会の成功に向けては、素材発掘を含めた普及の充実が更に重要度を占めると思われまます。そして陸上競技に出会った選手が順調に成長し、国際大会や全国大会で活躍してくれることを願ってやみません。

普及部としては昨年度、各地区の現状を把握させていただきました。その課題に基づき、本年度12月にクラブチームのあり方を考え直す研修会を開催しました。70名近くの指導者の方々にお集まりいただき、いろいろなご意見をいただきました。参加者の多さに驚くとともに、小学生を中心としたクラブチームの指導者の方々の意欲と情熱を感じ取ることが出来、更に普及を充実・発展していかななくてはと強く感じさせられました。

平成25年度からは実際に各地区に対して、強化・普及の支援等をスタートしていきます。そして少しずつ改良を重ねながら継続し、

高体連



地元全国大会で大きな成果を出せるように取り組みたいと思います。

普及部の今後の活動に、まずまずのご支援ご協力をお願いしたいと思います。

中体連



平成24年度の中体連では、全国大会5種目入賞と非常に良い成績を取ることができました。中でも、男子400mリレーで文岡中学校が三重県初の全国制覇を成し遂げました。女子四種競技では中西陽菜さん(多気中)が6位、男子400mの奥川魁斗さん(松阪西中)、走高跳の永井奈央史さん(山手中)、女子1000mの林田珠里那さん(度会中)が8位入賞を果たしました。

県中学新記録も男子400mリレーを始め、女子四種競技、女子1000m、2000mと、四種目の記録を塗り替えました。林田珠里那さん(度会中)と一色美咲さん(神戸中)を中心とした女子短距離において高いレベルでの争いが見られたことは大きな成果です。強化の取り組みとしては、冬の合宿や春の練習会を実施しています。昨年の冬は県営陸上競技場が使用できなかったため、各地区で合宿や練習会など実施しました。多くの顧問が指導に当たり、指導者の意識レベルが上がり指導技術も向上しました。

来年度は、東海・全国大会が愛知県で行われます。多くの選手が全国大会で活躍できることを期待しています。それと共に陸上競技が好きになり、多くの選手が高校で更に大きな花を開かせてくれることを望みます。

今年度の、印象深いことは、まだ記憶に新しい全国高校駅伝での県勢初の3位入賞をはじめとする伊賀白鳳高校の活躍です。とても悲しいことですが、長年三重県の長距離界をけん引していただいた町野英二先生がシーズン途中で他界されました。今シーズンの伊賀白鳳の皆さんは悲しみを力にして、全国高校総体、国民体育大会、全国高校駅伝競走大会において、目覚ましい活躍をしてくれました。新潟の全国高校総体では、1500mで西山雄介・畔柳隼弥の両名が2・8位でダブル入賞、5000mでは西山雄介が7位入賞を果たしました。国体でも西山雄介が日本人トップの2位となり、全国高校駅伝での第一区区間賞獲得につながっていきまました。全国駅伝では幾度となく、ピンチが訪れながら踏ん張りを見せた姿には見ている者の心を揺さぶりました。「はじめの一步を大切に」という町野先生の言葉を胸に新しく輝かしい歴史をこれからも刻んでいってくださることを願っています。

また、岐阜の国体では、インターハイで惜敗した愛敬彰太郎(桑名)が少年男子A400mで念願の全国制覇を成し遂げました。本人はもちろんのこと、3年間計画的に指導に当たってきた安田先生の喜びもひとしおであったと推察いたします。

岐阜国体では新星も誕生しています。松岡修平(高田高)が非凡な才能を開花させ、少年男子B走幅跳で第2位入賞を果たしています。他種目の才能も十分にあり、これからの活躍が楽しみです。

新潟総体ではケガとの戦いを余儀なくされましたが、それぞれが克服して入賞してくれました。全

マスターズ



国の頂点も狙える力がありました。男子4×100mRの宇治山田商・四日市工 幅・三段跳ダブル入賞(国体もダブル入賞)の竹内大晴(近大高専)、男子ハンマー投第3位の植松直紀(久居)、男子やり投第8位の中西琢磨(伊勢工)の皆さん、悔しさをこれからの人生で晴らしてくることを祈りま

今年度は女子が苦戦を強いられました。才能豊かな2年生もたくさんいますので、新しいシーズンでの奮起を期待しています。

三重マスターズ所属の米川佳孝です。短距離を専門にしています。現在、マスターズ陸上競技に出場しつつ、一般の大会にも出場しています。

マスターズ陸上は35歳から5歳刻みでクラス分けがされており、私の場合、今年42歳になりますので40〜44歳のM40というクラスにあたりまます。加齢とともに競技力が低下していく中、どのような年齢であれ同じ年代の方たちと競技ができるところが魅力です。これは中学生、高校生、大学生等それぞれの年代の中で競技していることと同様であると思っています。

私は2004年の33歳の時に競技復帰し今年で10年目を迎えます。現役時代と違っていた期間より復帰した後のほうが長くなりました。40歳を超え、若い頃と同じように競技を楽しむ、また若い頃以上に競技を深く追求しているとは思ってもいませんでした。幸いなことに昨年41歳まで、年齢に逆行して順調に記録が伸びて、400mは全日本マスターズ3連覇、M35クラスの日本記録、M40クラスではアジア・日本記録を樹立することもできました。

しかし、この年代での競技継続には様々な問題があります。私と同年代の方々に共通した課題は、練習時間・練習場所の確保、そして体調管理の面です。社会人である以上、練習時間・場所の確保にはみなさん苦慮しています。私の場合、出勤前の朝5時半からの坂ダッシュと休日の競技場での走り込みを組み合わせています。中には仕事を終え、日をまたぐ時間帯に練習されている方もみえます。また、体調面ですが、残念ながらこれが一番加齢を実感するところだと思います。疲労回復が年々遅くなっていることから頻りに怪我をするようになりまました。練習内容と休息の組み合わせ、身体のケア、食事で細心の注意を払っています。が、ここ2年は怪我で3分の1ほど試合欠場しています。しかし、限られた時間の中での練習、そして身体と対話しながらのコンディショニング管理は難しくもあり、まるでジクソパズルを組み合わせるような感覚もあり、それらのことが競技を楽しむ一つにもなっています。このように若い頃と比べ不利な環境ではありますが、逆に時間を大切に、より集中した密度の高い練習ができていっているのではないかと思います。

42歳になる今年は、ここ数年400mの記録が向上したことにより、結果的に練習内容もロングスプリント寄りにシフトしてしまいましたが、再び100m・200mを重点におき、年齢を理由に競技力に制限をかけることなく、100mでは10秒台、200mでは22秒前半を目標に日々努力を継続していきたいと思っています。

競技部



昨年の総会時にお話しさせていただきまました、競技会成立(公認)については、

- ① 主催者(陸連または加盟団体)
- ② 登録競技者が参加
- ③ 陸連競技規則での運営
- ④ 公認競技場であること
- ⑤ 審判は公認審判員であること
- ⑥ 申請(公認)

競技会であること

以上の6点です。これらは、選手がどの大会・どの場所へ行っても公平な条件で競技が行えるために、必要不可欠な基本条件です。

この中で、審判員はルールを熟知し公平に審判することが必要とされます。毅然とした態度も必要とされます。予期しない事案が発生した場合などは、個人的な判断をせずに主任や審判長の判断を仰ぐことが必要となりますので、発生状況を正確に把握することを心掛けてください。

【審判員の行動・動作について】

競技場内での審判員の行動は、意外?に見られています。「あの審判の旗の上げ方がいい」、「補助員がきばき動いている」、「あの審判員の服装が変だ」、「審判員が助言?指導?している」など、これらは全て選手はもとより観客からも爽快感や不信感を生む状況です。

日本陸連も、『見せる競技会』ということで、観客を意識・配慮した競技運営を実施するべきとの取り組みを行っています。

観客の興味・関心を盛り立てて審判を行うための、アナウンサーの紹介や実況。選手がスムーズにスタート位置に着いたり、出発できるタイミングの工夫等です。ハードルのスムーズな設置・撤去動作なども、見る目を楽しませてくれます。

選手も盛り上がった雰囲気、集中できる状況があれば、良いパフォーマンスにつながることでしよう。審判員の皆様も、競技運営に関してご自身が、『見られている』ことも常に意識し、身だし

なみを含めた取り組みの向上を心掛けていただきますよう、よろしくお願いたします。

25年度は、東海総体・東海駅伝の当番県となりますので、こちらの競技運営に関してもよろしくお願いたします。

審判部

日頃は、ご多忙の中競技運営にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

おかげをもちまして、部署により若干の過不足はあるものの競技運営に支障をきたすといったことなく開催できております。また、部署によっては工夫いただき支障の無いように人数を調整し、休みを入れていただいている部署もあります。多忙感を少しでも解消できるように人数を増やす。また、部署で話し合いを持っていただければと思います。

来年度は、『県大会にご協力いただける人数を確実に増やす。』に取り組んでいきたいと考えています。現在、登録いただいている公認審判の人数は500名余りをお数えます。そのうちの約6割の方に毎回役員依頼文書を発送させていただいております。その約半数の方が毎回競技場へ来ていただいております。180名程度の方が出席いただければ県内大会は余裕を持って運営できます。しかし、さらに充実した競技会運営をするためには、220名ほどの人数が必要かと考えます。

精密機器、電子機器の導入で観客への速報性等は高まりましたが、それに関わる審判員の数は以前の倍かかるような状況です。ま

た、競技への関心の高まりもあり観客が増加し、その整理、誘導、練習場での安全の確保等の場内指令の業務も増加の傾向です。そして、

競技者の気質の変化と申しますか、競技場内での競技者のコントロールといった面でも十分な審判員の数を確保する必要があります。

記録部

HP上でのスピーディーなりザルト掲載、記録のデータベース化は、情報部の協力の下、選手・保護者・指導者・陸上ファンの間で浸透してきました。これからも、

記録の見える化を推進してまいります。また、地区陸協記録担当者との連携を深め、記録の電子化を進めることで、確実な公認記録申請、正確な記録のデータベース化づくりに努めてまいります。今後とも三重陸協記録部を、よろしくお願いたします。

情報部

情報・先端県を目指して！

スマホが普及し、WEB環境も新時代に突入しました。コンセプトは「選手の為に」応援の皆様の為にと日々新しい物に取り組んでおります。大会当日の携帯速報サイトも定着し、掲示板を見に行

く手間も省けたと思います。大会運営のスムーズさ等、三重陸協でしかできない事はばかりです。これが普通だと思わないで下さい。「全ては選手の為に」これが三重陸協なのです。全国総体・国体を控えたハード面では素晴らしい競技場になると思います。ハードが整えば、あとはソフト面です。人口の少ない三重が全国で勝負する為には、全県を挙げてのチームワークが必要となるでしょう。競技場は舞台です。日々の努力・練習なくして良い演技はできません。最高の演出をします。選手諸君は最高の舞台で最高の演技をして下さい。その為に最大の努力して下さい。

強化部

日頃は強化委員会の活動に、ご理解とご協力を賜り、大変ありがとうございます。

強化委員会としましては、国民体育大会と都道府県駅伝大会の2つの大会において、結果を出すべく、強化方法を検討していかなくてはならないと考えています。「オール三重」の選手は、各所属チームの選手をお借りして、合宿などで意識を一つにまとめ上げて、試合に臨む方法で編成されていきます。

より強い選手団にするためには、一人一人の選手の「競技力」のベアアップは不可欠だと思えます。そのためには、各指導者の「指導力」のアップも必要だと思えます。24年度は指導者講習会も実施しましたが25年度以降も積極的に指導者講習会を実施して、選手強化につなげられるように努力していきたいと思えます。

また、来たるべく全国総体、三重国体に向けても普及部と協力しながら、小中学生の強化活動もしっかり連携を図りながら、実施して

いきたいと思えます。そのためには、指導者も小学校・中学校・高等学校それぞれが交流を図れる場の設定も必要となつてきますので、新しい企画も考えていきたいと思えます。

技術委員会

ぜひとも皆様のご協力、ご理解が必要となりますので、よろしくお願いたします。

① 日本陸上競技連盟競技規則に従い、公式の競技会を開催し得る、陸上競技場および長距離走路ならびに競歩路の公認検定作業を行う。

- ② 競技場の施設が、「公認陸上競技場および長距離走路ならびに競歩路規格」の各条項に基づき、競技の実施が可能かを確認し、もし不都合があれば管理者と折衝して整備の依頼をする。
- ③ 器具が規格に合致しているかを確認する。
- ④ 競技会では、トラック、助走路サークル、円弧、角度、着地場所等が正しく整備されているかを確認し、得点表、成績表、記録表が用意されていることを点検する責任を負う。
- ⑤ 競技進行中は、全般的に観察し、絶えず審判長や総務と協議を重ね競技の円滑な進行を図る。

- (1) 三重県営総合(陸) 補助競技場 平成24年2月14～15日
- (2) 公認検定済
- (3) 三重県営総合(陸) 付属長距離走路
- (4) 平成26年8月16日
- (5) 四日市中央緑地(陸)

- 2種 平成26年3月14日
- (5) クスノキ(10km)
- (6) サルビア(10km)
- (7) 鈴鹿市石垣池公園(陸) 3種 平成25年3月10日 (公認検定予定)

各地区でシテイマラソンの企画及び競技者が増加しています。国際大会や招待選手が走る場合、自転車計測でない公認が認められませんが、長距離走路の公認検定を行う場合は、技術委員会までご相談下さい。

医事委員会

本年年度の医事委員会の活動に、温かいご理解とご協力をいただき、深く御礼申し上げます。

本年度も、鈴鹿医療科学大学及び各関係の皆様のご協力により、小学生から一般全ての年齢層の大会を対象に、年間12大会延べ21日間、県内大会を中心にトレーナー活動を展開して参りました。

また、本年度は一般からもトレーナー活動希望者を募り、その中のトレーナー活動経験者も加わったこと、学生トレーナーも2年目となりスキルアップが図れたこともあり、活動現場での適応力もアップしたのではないかと考えています。

次年度は、東海高校総体等大きな大会も本県で開催されますし、本県選手が出場する県外大会への帯同も計画しております。

これからも、医事委員会の活動に、ご理解とご協力をいただけてますようよろしくお願申し上げます。

女性委員会

2012年度 全国女性委員会 議報告

開催日 平成25年2月10日(日) 場所 日本陸上競技連盟会議室 本年度は、講演と各陸協からの活動報告・意見発表が行われました。

「個性を活かす」というテーマで、ソフトボール元女子日本代表監督・宇津木妙子氏より、講演が行われました。

自分の高校時代から監督に就任してからの取り組みなど、経験をもちに、話して頂きました。高校時代は、先生に叱られるから練習をしていて、言われる練習をこなしていたが、社会人になったら、周りは教えてくれず、レギュラーにもなれず、途方にくれてたこと。そこで、レギュラーをとるために、どうやってアピールするかを自分で考え練習を行うことにより、強くなり、13年間、ユニチカで選手として、競技生活を続けられたこと。その間、もちろん、仕事ももちろんあり、1985年に現役を引退し、翌年、日立高崎(現ルネサスエレクトロニクス高崎)女子ソフトボール部監督に就任。当時3部のチームを3年後には日本リーグ1部に昇格。これらの活躍が評価され、1997年日本代表監督に就任されました。女性初という事で、風当たりは強かったそうです。しかし、選手がいたから監督になれるという思いを大事にしながらいざ指導を行ったそうです。まずは「挨拶」「気配り」「時間厳守」人として大事な事ををルールとし、自己中心なプレーをしないという事を選択と約束した

そうです。ソフトは、チームプレーと思われがちだが、個々の役割がはっきりして、その役割をきちんとかんがえて、その役割をきかせる意味、個人競技だそうである。それゆえ、自分にとっての一番をみつけること。それを活かすことが、チームにとって、大切になるのだとおっしゃってました。

日本代表選手がアメリカで合宿を行った際に、日本の選手、自分たちは、指示待ちだが、アメリカの選手は自分で考えて行動しているのを目の当たりにして、それではいけないと気が付き、それから、チームも大きくなったそうです。監督としては、毎日、ノートを書かせ、女性は、自分と人とをよく比較するので（どうせ私は・・・）とならないように、個々の役割分担を理解させるようにレギュラー以外の選手ともよく、話をしたそうです。最後に、「選手と怖がらずに真剣に向き合ってください。そうすれば、選手は必ずわかってくれる」と熱く語って頂き講演が終了しました。

各陸協からの活動報告・意見発表が、3つのテーマで行われました。

① 岐阜県から、25年度から、競技会での託児所の設置・運営を考えているので、意見を聞きたいという事でした。過去に実施したことがある県から、保育士の確保、謝金などの費用、けがをした時の保険やその時の対応など、難しい問題があり、今は、行っていないとのことでした。しかし、国体を控えている県では、前向きに考えているという県や、託児所を考えるより、復帰できるよりよい環境作りの方が大事だという意見もできました。

② 第52回東京女子陸上競技大会（東京レディース2012）の活動報告が行われ、他の大会と

違う点を紹介していました。ピョンクリボン運動に協力をし、プログラムに乳がん、子宮頸がんについての、Q&A、元七種競技選手の体験者からのメッセージ、病気について、解りやすく図などを取り入れ、早期発見の大切さなどが5ページにわたって、掲載されていることや盗撮防止、ゴミ持ち帰り運動、ポトルキヤップ回収について、理解や協力を求めて、競技会を実施しているとの報告がありました。

③ 盗撮対策については、警察への通報や対応の仕方、張り紙、許可書、ホームページへの警告文を掲載するなどの取り組みの発表がありました。会議の最後に小松邦江委員長から日本陸上競技連盟に登録する全ての会員が、セクシユアルハラスメント・暴力行為等の倫理に反する行為を行うことや、それらの行為により、被害を受けることの防止を目的とする、「倫理に関するガイドライン」が、ホームページに掲載されているので、見て頂きたいとのことでした。

以上で全国女性委員会の報告とさせて頂きたいと思えます。女性委員会では、多くの女性の方が、経験を生かし、審判や指導者として、活躍して頂きたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。



昨年6月、三重陸協理事で上野工業高校時代から監督を務められた町野英二氏が亡くなられました。そして、その悲報を乗り越え、悲願であったメダルを獲得された伊賀白鳳高校の取り組みを紹介させていただきます。

第62回までのおもな成績
第33回（S57）初出場 第41回（H2）初入賞10位 第43回（H3）最高順位4位 第55回（H16）5位
三重県高校最高記録 2時間5分28秒 H16 日本海駅伝第63回大会の成績
2時間5分33秒（歴代2位）3位（最高順位）2区間で区間賞（1区・5区）三重県初

伊賀白鳳高校 監督 中武隼一
昨年6月にこれまでチームを育ててくださった町野英二監督が亡くなられ、チームは悲しみ包まれました。しかし、先生への恩返しはこれまで通りの姿であり続けることだと、先生が残してくださいました。「最初の一步を大切に」の言葉を支えに、一步一步その歩みを進めてきました。全国高校総体・国民体育大会ではチームに勢いをつける為、それぞれの選手が奮起し、その度に「全国駅伝で町野先生にメダルを届ける」とチームが一つになりました。県予選では、男女アベック優勝を目

標に挑みました。が、女子の悔しさも襷に込めて奮起し優勝することが出来ました。

全国大会当日は、部員全員が胸に喪章をつけ、町野先生の教えを都大路で実践



し、町野先生に恩返しをするぞと覚悟を決め挑みました。レースは前半の3年生が絶好の流れを作り、後半の2年生がこの流れをゴールまで繋ぐことが出来ました。これは、走った7名だけの頑張りではなく、補欠や付き添い、途中応援の選手たちがそれぞれの持ち場でチームの為に一生懸命役割を果たした結果であると思っております。そして、3位入賞を目指す過程で子どもたちの人間性が成長していったことが何より嬉しく思います。

町野先生はよく「メダルの色は何色でも良いから三重県の高校でメダルを取りたい」と話されていました。選手としては、監督のその思いを叶えたいとこれまで何度もその目標に挑戦し続けてきました。今年、その思いが特に強かったと思います。その目標に対して一時もぶれることなく、一点を見つめチームとして向かっていくことが出来ました。

伊賀白鳳高校 メダルまでの道のり

今回の結果は、部員全員で「繋ぎの駅伝」に徹し、またご家族をはじめ、地域の方々、中学校の先生やコーチの方々、関係者の方々、本当に沢山の支えの中で達成できた駅伝であったと



心から感謝しております。しかし、次への一步はアンカーの選手がゴールした一歩から始まっています。これまで通り「最初の一步を大切に」、今回の結果に驕ることなく、足元を見つめて、恩返しを続けていきたいと考えております。今後とも宜しくお願いいたします。

【選手のコメント】

1区 西山雄介
この度は全国高校駅伝のご支援・ご声援ありがとうございました。私は前回大会終了後、「来年は1区を走って区間賞を取り、チームに勢いをつけて」と目標を決め、一日も忘れることなく練習の中でイメージし、また生活を送ってきました。今年一年間はチームの為に努力し、常にチームの為に何が出来るのかを考えて日々を過ごしてきました。今大会は、「無心でレースを楽しむ」をテーマに走りました。7km地点からの下りの勝負所で何度も苦しい場面がありました。町野先生にメダルを届けるために何が何でも自分がチームに勢いをつけることと頑張りました。チームとしても、個人としても、町野先生へメダルを届けることが出来たことが本



当に嬉しいです。しかし、これも多くの支えてくださった方々のおかげであると思っています。伊賀白鳳高校に入学し、沢山の仲間たちとの出会いで大きく成長することが出来ました。大学に進学してからも、素直さと謙虚さを忘れずに頑張っていきたいと思います。7区川戸拓海
昨年の全国高等学校駅伝競走大会は、自分にとって「感謝しても足りない」ものでした。大会が近づいて来るにつれて様々な方々に声をかけてもらい、改めて自分達が多くの方々に支えられていることを実感しました。当日は、選手同士で手の甲に「絆」と「闘魂」をマジックで書き、声を掛け合いました。沿道の声援に励まされ走っている際、ラスト1kmを過ぎたところで父の声が聞こえた時は、伊賀白鳳高校の陸上競技部であったことが本当に嬉しかったです。自分の最後のラストスパートは実力ではないと思っております。なぜなら、これまでの自分の力でのラストスパートとはかけ離れた走りだったからです。あれは、チームの思いが襷に込められ、自分の走りに乗り移ったからだと思います。感謝するだけではなく、この思いは恩返しできません。しかし、その気持ちです。自分自身がゴールした瞬間から次の一步を踏み出しているというのがチームの共通意識です。今年、昨年より強いチームを全員で目指していきます。この度は応援ありがとうございました。